

令和7年度 こどもり学園（中学校）経営方針

「こどもり学園」教育目標

志を持って、さらなる高みを目指す児童・生徒

1 経営の基本方針

生徒は、「分かる喜び・できる喜び・使える喜び」を体感することにより、学習に対する意欲を持ちます。学校は、生徒の学習意欲を喚起して、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓いていけるよう、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開することが重要です。

なお、教育活動を進めるに当たっては、小中一貫教育校設立の趣旨を踏まえ、生徒一人一人の「学力・成長・居場所の保障」が学校の責務であることを教職員全員が常に自覚して、教育活動の質的向上を図ります。

そのために、一人一人の個性や実態を把握しながら、かしこく、ゆたかに、たくましく生きていくことのできるこどもの育成を目指して、生徒・家庭・地域から信頼される学校づくりを推進します。

2 教育目標・努力目標

〈教育目標〉

「かしこく・ゆたかに・たくましく」学ぶ生徒

〈努力目標〉

(知) 目標の実現に向かい、主体的に学習に取り組む生徒

(徳) 命の大切さを自覚し、自分と他人を思いやる生徒

(体) 困難を乗り越え、健康、運動、安全を心掛ける生徒

3 経営目標

(1) めざす生徒像

- ① 互いに学び合い、高め合い、課題を乗り越える生徒
- ② 夢や希望を育み、仲間とともによりよく生きる生徒
- ③ 心と体の健康や安全を保持し、元気に運動する生徒

(2) めざす教師像

- ① 「主体的・対話的で深い学び」をとおして授業改善を図る教師
- ② 経営参画の意識を持ち、組織的・協働的に職務に取り組む教師
- ③ 危機管理意識を持ち、生徒、保護者、地域から信頼される教師

(3) めざす学校像

- ① 生徒にとって、明るく未来の夢が育まれていく学校
- ② 教職員にとって、やりがいや活力が満ちている学校
- ③ 保護者や地域にとって、親しみや信頼があふれる学校

4 指導の重点

努力目標 1 ; 『目標の実現に向かい、主体的に学習に取り組む生徒』の育成

- (1) 一人一人のこどもの実態に応じたきめ細やかな指導
 - ① 一人一人の実態把握・分析に基づいた指導計画と評価の工夫改善
 - ② 知識及び技能の習得・定着に向けた指導方法や指導体制の工夫
 - ③ 学習規律の確保、タブレット端末等の利活用と指導形態の工夫
- (2) 主体的に学習に取り組む態度の育成
 - ① 学ぶ意欲や向上心を育み、達成感・成就感を味わえる授業づくり
 - ② 協働的な学びをとおして、新たな価値を創造できる力の向上への支援
 - ③ 教科の特質を踏まえた9か年を見通した学び方と家庭学習の充実への支援

努力目標 2 ; 『命の大切さを自覚し、自分と他人を思いやる生徒』の育成

- (1) 相手を思いやる心の育成
 - ① 道徳の時間を要とした適切な判断力や相手を思いやる心の育成
 - ② 互いを認め合い、自主的な態度や自治的な意識を高める特別活動の推進
 - ③ 今を未来に繋げ、キャリア教育をとおした生き方指導の推進
- (2) 学級経営の充実
 - ① 教師とこども、こどもとこどもが信頼し合い、認め合える学級づくり
 - ② 学級の一員としての所属感や連帯感を持たせ、よりよい人間関係の構築
 - ③ 規範意識の醸成と自己有用感を高める体験的活動の充実

努力目標 3 ; 『困難を乗り越え、健康・運動・安全を心掛ける生徒』の育成

- (1) 健康・運動に関する知識の習得と意欲付け
 - ① 自他の健康と安全に気を配り、ルールとマナーを尊重する態度の育成
 - ② 心と体の健康に向け、実態に基づいた目標設定と学校全体の取組の充実
 - ③ 進んで運動する生徒を育てるための体育科の充実や部活動の利活用
- (2) 困難を乗り越える実践意欲と態度の育成
 - ① 困難に立ち向かう耐性や克己心の育成と保健安全指導の充実
 - ② 危険予知能力・危険回避能力の育成に向けた安全教育の推進
 - ③ 基本的な生活習慣の確立に向けた家庭や地域との連携・協働

5 指導上の配慮事項

- ◎ 言葉を大切に、あたたかさや厳しさのある指導
- ◎ 誠実さを高め、自律と自立を伸長する指導
- ◎ 保護者や地域と連携・協働し、地域とともにある学校
- ◎ 報告・連絡・相談・確認を密に
- ◎ 共通理解を基に、組織の一員として協働的に
- ◎ 明るく、楽しく、語り合える職員室

6 小中一貫教育校の充実・推進に向けて

- ① 小中一貫教育校に係る成果と課題の把握、協働指導体制の強化
- ② 小中の緊密な情報交換・共有による連携・協働の充実
- ③ 小中一貫教育校に係る実践の情報共有と情報発信